

自己点検・自己評価

2025年4月1日

玉川国際学院

5：達成している 4：ほぼ達成している 3：どちらともいえない 2：取り組みを検討中 1：改善が必要

1. 教育の理念・目標 評価

1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか 5

1-2 学校の特色は明確か 5

1-3 理念に基づく教育が行われているか 5

<現状と課題>

本学は、外国人に対する日本語教育を行い、異文化の交流、相互理解を促進し、もって国際社会の平和的な発展に寄与することを目的としている。この社会的使命を達成するため、本学における教育活動等の状況について、自ら点検・及び評価を行うものとする。

各国からの留学生を受け入れるにあたり、日本語能力の向上のみならず、教養ある人格者を育成するという理念を、教職員一同が共有しており、この理念の実現に向け日々全力を尽くしている。通常の授業に加え、定期的な「生活指導」、「進路指導」等を通じて、教員と学生とのコミュニケーションを大切にしている点が、本校の特徴である。

グローバル化が進む今日だからこそ、世界各国の文化だけでなく、日本文化の伝達にも力を入れており、日本の歴史や伝統に含まれるであろう知恵を身体で習得させることを重要な課題としている。

2. 学校運営 評価

2-1 運営方針は定められているか 5

2-2 運営方針に沿った事業計画は定められているか 5

2-3 運営組織や意思決定機構は有効に機能しているか 4

2-4 危機管理体制は整備されているか 4

2-5 教育目標達成に必要な教員の知識、能力や資質が明示されているか 5

<現状と課題>

学校設置者、校長、主任教員、教員は、「日本語教育機関の運営に関する基準」で定める要件を満たしており、組織は、事業規模に応じた体制になっている。事務局は、受け入れる学生の言語に対応できる職員を採用している。入管事務担当者は特定され、入国管理局により認められた申請取次者を適切に配置している。

校長、主任教員、専任教員及び非常勤講師の職務内容、責任と権限が明確に定められ、全体会議を通じて教員及び、非常勤講師の職務内容や注意事項を確認している。

防災訓練が定期的に行われ、「防災ハンドブック」を全学生に配布している。また、警備会社の安否確認サービスを利用して、学生と常に連絡がとれる体制が整えられている。

留学の資格で在籍する者には全員国民健康保険へ加入させており、結核などの感染症に罹患した

場合、連携すべき病院や保健所を教職員が理解している。

警視庁による防犯講習会も開催され、学生の安全を守る努力がなされている。

3. 教職員	評価
3-1 教育理念・目的が教職員間で共有されているか	4
3-2 教育の質を向上させるための取り組みが確立されているか	5
3-3 教職員評価が行われているか	5

<現状と課題>

学生の学習意欲を引き出し、日本語能力の向上を目指すことに加え、授業では、興味を持てる授業にするべく、世界の国々の文化、習慣、考え方を取り入れるとともに、日本の歴史や伝統を学び、日本人の考え方、価値観を理解できるようになることを目標としている。

毎日会議が行われ、教育の質を高めるための議論が行われている。新任教員だけでなく、教員間でも随時相互に授業参観が行われ、授業後のフィードバックを通じて、相互に教職員評価を行っている。成績の判定基準や成績評価の結果も、会議において教員間で共通理解をはかっている。

4. 教育活動	評価
4-1 カリキュラムは体系的に編成されているか	5
4-2 成績評価は適切に行われているか	5
4-3 各種日本語試験の合格率向上のための指導体制は整っているか	5
4-4 教育内容及び教育方法について教員間で共通理解が得られているか	5

<現状と課題>

学生の能力に応じた適切なクラス編成にもとづき、クラスのコースに応じた適切なカリキュラムが編成されている。授業時数・授業時間・授業期間は、日本語教育機関の告示基準を厳守しており、教育内容・教育方法について、教員間で共通理解が得られている。学習内容・時間割・成績の基準・学習上の留意点等を、オリエンテーション等を通じて、学生に周知している。

校内の中間試験、期末試験に加え、EJU校内模試、JLPT校内模試を定期的実施し、学生の学習度を適切に把握している。各種試験の結果の情報は、全教員に共有されており、理解度・到達度の確認がその都度なされ、それに基づき、各教員が指導を行っている。

教材に関しては、各教員が有効なものを随時選択し、それを全教員が共有できる体制となっている。各教室には、大型のモニター、ラジカセが設置され、教育内容・クラスに応じた教育活動がなされている。

5. 学生支援	評価
5-1 進路に関する支援体制は整っているか	4
5-2 学生からの相談に乗る体制は有効に機能しているか	4

<現状と課題>

学生の進路希望は、専門学校、大学、大学院に大別されるが、進路を自ら考え、決定できることを手助けすると共に、各自の適正に合わせ「進路指導」を行っている。個別の面談を通じて進路希望調査を実施するとともに、定期的に進学オリエンテーションを行っているほか、校内の中間試験、

期末試験に加え、EJU校内模試、JLPT校内模試を定期的実施し、学生の学習度を適切に把握することによって、進学先のアドバイスをを行っている。

担任教員によるカウンセリングが定期的に行われ、学生が抱えるさまざまな問題に対し、ひとりひとりとコミュニケーションの時間をとり支援を行っている。

学生寮は、通学の距離や住居環境など、学生が生活しやすい環境を考慮したものとなっており、休日においても、学生とのコミュニケーションだけでなく、アルバイト先ともコミュニケーションを取り、学生の生活全般について、支援体制を整えている。

6. 学生の募集と受け入れ

評価

6-1 学生の受入方針は定められているか	5
6-2 学生募集活動は、適正に行われているか	5
6-3 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	5

<現状と課題>

理念、教育目標に沿った学生の受け入れ方針を決定し、年間募集計画を策定している。募集定員に基づき、職員が入学志願者に対して情報提供や入学相談を行っている。

最新の情報を複数の言語でホームページや海外の仲介業者へ配布する資料で提示している。海外の仲介業者とは、両国において法令等の違反なく募集活動等が行えるよう業務委託契約書を締結している。

入学選考基準及び方法が明確化されており、職員が学生情報を正確に把握し、提出書類により確認を行っている。また、受け入れるコースの教育内容が志願者の学習のニーズと合致することも確認している。その際、担当職員がオンラインにて、学生本人と直接面接し、留学目的や経歴、家族構成など必要な情報を聞き取り調査している。

7. 在籍管理と生活指導

評価

7-1 日本在留に関する管理と指導が適切に行われているか	5
7-2 日本の法令を遵守させる取り組みが行われているか	5
7-3 学生について常に最新情報を把握しているか	4

<現状と課題>

オリエンテーションで、大きく「学校のルール」、「生活のルール」「災害について」の3つに分け、国内の法令や日常生活のルール、学校生活のルール等について、丁寧に説明している。とりわけ、出席率の重要性や就労時間の厳守を認識させている。出席率に問題のある学生については、その都度、個別に面談を行い、欠席が続く学生については、担任の教員が自宅を訪問するなど、常に学生とのコンタクトを取るようになっている。アルバイト先の変更、居住地の変更等があった場合は、担任が速やかに把握できるように、面談、カウンセリング等を通じて個々の学生と常にコミュニケーションをとっている。

卒業生についても、入学許可書等を提出させ、進路先を把握している。